

「JENESYS2.0」

2017年度中国高校生訪日団第3陣Bコース

訪問日程 平成29年11月7日(火)～11月15日(水)

1 プログラム概要

中国教育部が派遣した2017年度中国高校生訪日団第3陣Bコース計150名が、11月7日から11月15日までの8泊9日の日程で来日しました。(副団長：貢 建勲(コウ・ケンクン) 中国山西省教育庁 基礎教育処 副処長)

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は、東京都を始め、神奈川県、山梨県、兵庫県、広島県、大分県、宮崎県を訪問し、「クールジャパン」を含め、様々な分野における日本の魅力、強みを体感したほか、高校、大学の訪問・交流や農家民泊等を通じて、日本の青少年や一般市民との友好交流と相互理解を深めました。

2 日程

11月7日(火)

- 第1・2分団： 成田空港より入国
- 第3・4分団： 羽田空港より入国、浅草寺見学
- 第5分団： 羽田空港より入国

11月8日(水)

- 共通： オリエンテーション
社会福祉に関する講義、日本社会事業大学学生との昼食交流
歓迎会
- 第1・2分団： 上智大学訪問
- 第3・4・5分団： 法政大学訪問

11月9日(木)

- 第1・2分団： 兵庫県へ移動、兵庫県立総合リハビリテーションセンター視察
- 第3分団： 広島県へ移動、(特養)星の里視察
- 第4分団： 大分県へ移動、大分県社会福祉介護研修センター視察
- 第5分団： 宮崎県へ移動、(特養)皇寿園視察

11月10日(金)

- 第1分団： 学校交流①(兵庫県立北摂三田高等学校)
- 第2分団： 学校交流①(兵庫県立加古川西高等学校)、明石海峡大橋見学
- 第3分団： 学校交流①(福山市立福山中・高等学校)
- 第4分団： 学校交流①(大分県立佐伯豊南高等学校)
- 第5分団： 学校交流①(宮崎県立日南高等学校)、飫肥城見学

11月11日(土)

- 第1・2分団： 姫路城、好古園見学
- 第3分団： 広島平和記念資料館見学、農家民泊体験(福山市)
- 第4分団： 別府地獄めぐり見学、農家民泊体験(臼杵市)
- 第5分団： 鵜戸神宮見学、農家民泊体験(小林市、他)

11月12日(日)

- 第1・2分団： メリケンパーク見学、東京都へ移動
- 第3分団： 農家民泊体験(福山市)、千光寺山ロープウェイ見学、東京都へ移動
- 第4分団： 農家民泊体験(臼杵市)、臼杵石仏見学、山梨県へ移動
- 第5分団： 農家民泊体験(小林市、他)、青島エリア見学、東京都へ移動

11月13日(月)

- 第1分団： 学校交流②(東京都立三田高等学校)、明治神宮見学
- 第2分団： 学校交流②(東京都立葛飾総合高等学校)
- 第3分団： 学校交流②(神奈川県立神奈川総合高等学校)
- 第4分団： 学校交流②(山梨県立甲府西高等学校)、昇仙峡見学
- 第5分団： 学校交流②(渋谷教育学園渋谷中学高等学校)

11月14日(火)

- 第1・2分団： 江戸風鈴絵付け体験
- 第3分団： 東京国立博物館見学
- 第4分団： 東京都へ移動
- 第5分団： 食品サンプル製作体験
- 共通： 商業施設視察、歓送報告会

11月15日(水)

- 第1・2分団： 羽田空港より出国
- 第3・4分団： 皇居外苑、お台場、ソニーエクスプローラー見学、羽田空港より出国
- 第5分団： 皇居東御苑、成田山新勝寺見学、成田空港より出国

3 写真

<共通>



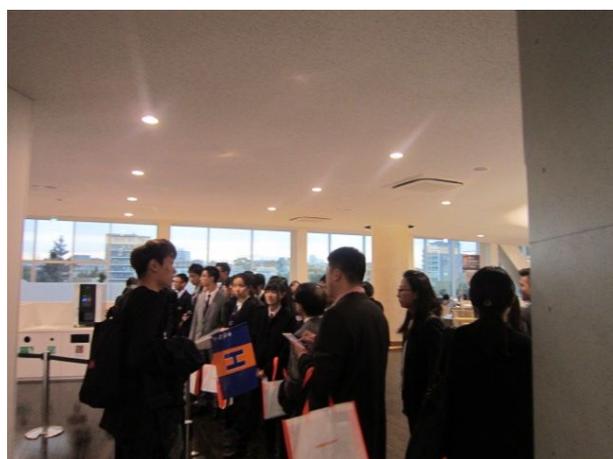
11月8日 オリエンテーション(東京都)



11月8日 社会福祉に関する講義(東京都)



11月8日 上智大学訪問(東京都)



11月8日 法政大学訪問(東京都)



11月8日 歓迎会(東京都)



11月8日 歓迎会(東京都)



11月14日 歓送報告会（東京都）



11月14日 歓送報告会（東京都）

<第1分団>



11月9日 兵庫県立総合リハビリテーションセンター視察（兵庫県）



11月10日 兵庫県立北摂三田高校訪問・交流（兵庫県）



11月11日 姫路城見学（兵庫県）



11月13日 東京都立三田高校訪問・交流（東京都）

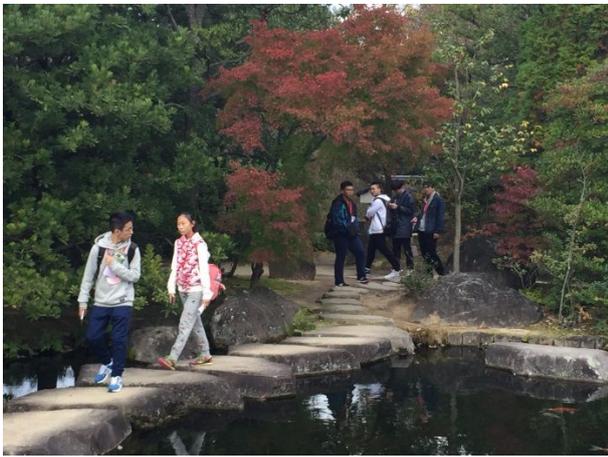
<第2分団>



11月9日 兵庫県立総合リハビリテーションセンター視察（兵庫県）



11月10日 兵庫県立加古川西高校訪問・交流（兵庫県）



11月11日 好古園見学（兵庫県）



11月13日 東京都立葛飾総合高校訪問・交流（東京都）

<第3分団>



11月9日 （特養）星の里視察（広島県）



11月10日 福山市立福山中・高校訪問・交流（広島県）



11月11-12日 農家民泊体験（広島県）



11月13日 神奈川県立神奈川総合高校訪問・交流（神奈川県）

<第4分団>



11月9日 大分県社会福祉介護研修センター視察（大分県）



11月10日 大分県立佐伯豊南高校訪問・交流（大分県）



11月11-12日 農家民泊体験（大分県）



11月13日 山梨県立甲府西高校訪問・交流（山梨県）

<第5分団>



11月9日 (特養) 皇寿園視察 (宮崎県)



11月10日 宮崎県立日南高校訪問・交流 (宮崎県)



11月11-12日 農家民泊体験 (宮崎県)



11月13日 渋谷教育学園渋谷中学高校訪問・交流 (東京都)

4 参加者の感想（抜粋）

○ 日本の環境は美しく、大通りも路地も清潔で整然としている。ゴミはみな分別されてゴミ箱に捨てられ、景勝地は見飽きることがないくらい素晴らしく、水は青々と澄み、家々は夢の世界のようである。

日本の社会福祉制度は完備されていて、子供は保護され高齢者は頼る場所がある。中国の各地方でも参考にし、取り入れるべきである。そうして、一層整った体制を作り上げ、世界をより美しく変えるべきである。

この他、日本の生徒たちの情熱と心の温かさに感動した。お互いに厚い友情を結ぶことができた。

○ 日本の環境はとても美しい。都市も田舎も塵ひとつなく、景勝地はまさに絵に描いたような風景である。空気は新鮮で、本当に感動した。名残は尽きない。社会は秩序立っていて、ゴミの分別も非常に念入りである。

日本の社会福祉体系は、完成した制度と質の高いソフトとハードによって成り立っている。この体系は、国民の負担をできるだけ軽減するというスタンスで、各自の必要に応じたサービスを提供することを目標に進められている。

対応してくれたスタッフも、同世代の高校生もとても親切で、交流に積極的であった。彼らはきめ細かく日本文化を紹介してくれ、私たちと友人になってくれた。

○ 今回のプログラムのテーマは社会福祉であり、私たち B5 分団は皇寿園特別養護老人ホームを訪問した。これは、私にとって最も印象に残った出来事であった。老人ホームの見学では、高齢者それぞれのニーズにマッチするように、ホーム内に三種類の異なる介護システムが設けられていること、また、様々なレクリエーションが行われ、高齢者の生活をより楽しく愉快にしている様子を見ることなどができた。介護士の方の講義を通じて、日本の社会福祉制度をより深く理解することができた。また、彼の温かい態度にも感動した。帰国後は、周囲の人々に日本の完備された社会福祉制度を紹介するつもりである。

○ 今回のプログラムのテーマは社会福祉であり、我が分団は皇寿園特別養護老人ホームを訪問した。私たちがホームに到着すると、百歳近い高齢者の人たちが、手に中国の国旗を持って笑顔で訪問を歓迎してくれた。私たちの心はとても温かくなった。

帰国後は、今回の日本訪問での見聞を同級生たちに話し、現在の日本の社会福祉体制を伝えたい。私たちは日本のこうした整った制度を参考にすべきであり、互いに学び、発展を促進すべきである。

○ 私たちの分団は皇寿園特別養護老人ホームを訪問した。高齢者のみなさんは中国の国旗を手に、慈愛に満ちたまなざしで私たち中国の子供たちを迎えてくれた。私が一人のおばあさんの隣にしゃがむと、おばあさんは私の手を取って、日本語で興奮したようにこう言った。「私は来年、百歳になるのよ、あなたたちにまた来てほしいわ」。私は心からこのおばあさんの百歳の誕生日に参加したいと思った。でも、来年は受験があるから来られない。このおばあさんへ、百歳の誕生日プレゼントを贈ることができればと思う。

帰国後は、中国政府に訪日視察レポート『日本の就業制度の我が国に対する啓示』を提

出する。日本の先進的な経験を我が国でも活用したい。また、同級生にも日本の状況を紹介し、中国人の日本に対する理解を増進させたい。最も重要に思うことは、今回の訪日で知り合った5人の日本の友人たちと交流を続け、永遠の良き友人となることである。

○ 中日両国は一衣帯水の隣国であり、両国の交流の歴史は連綿と続いている。今年度の中国高校生訪日団第三陣のメンバーとして、連日の訪問交流プログラムを通じて、日本人の親切なおもてなしを体験し、理解を深めることができ、友情を築いた。特に、日本の社会福祉事業、環境秩序、学校教育のことが深く心に残った。

今回の訪日を通じて、我が校の生徒たちも必ずや中日両国国民の友好往来の小さな使者となり、両国の友好協力関係をさらに前進させると確信している。また、今回日本で訪問した二つの高校と我が校とが、今後ますます多くの交流の機会を持ち、より幅広い交流活動を展開していくことができることを心から期待している。

○ わずか半日の短い時間であったが、山梨県立甲府西高校の先生や生徒たちとの出会いが、最も深く印象に残った。忘れがたいのは、なによりも弓道部での体験である。伝統的な弓道着を身に着けた部員が、「射法八節（弓道）」を実演してくれた。「シュッ」という音とともに矢が放たれると、一直線に、二十メートル先の西瓜ほどの大きさの的の真中に刺さった。私は驚いて思わず拍手をした。私たち自身が実際に体験してみると、事はどれもそう簡単ではなく、部員の丁寧な手ほどきがあったおかげで、私はなんとか命中させることができた。私の好きなアニメは『ジョジョの奇妙な冒険』だと話すと、それまで真面目だった生徒たちが一気に盛り上がった。さらには、「ジョジョ立ち」のポーズで集合写真を撮ろうと言い始めた。その時私は、世界はこんなにも小さく、私たちの心はこんなにも近くなれるのだ、と痛切に感じた。

帰国後は、同級生たちにこの気持ちを伝えたい。日本の生徒たちの放課後の活動は、テレビやアニメで描かれている通りに多種多彩だ。でも、彼らの学業へのプレッシャーは、決して漫画やアニメのような気楽で容易なものではない。日本の生徒も私たちと同じように、自らの競争力を高めるために、塾に通い、多くの試験に挑んでいる。海を隔てた友人たちが日夜奮闘努力していることを思うと、私たちもまた闘志がみなぎって来る。

○ 今回の訪日で、多くの素晴らしいものを見た。中でも最も印象深かったのは、日本の高校生と一緒に参加した体育の授業である。言葉は通じないものの、野球のグラウンドでは相手の意思がお互いに分かり、まさに以心伝心というものかもしれない。私はこの時まで野球をしたことはなかったが、日本の生徒が一人、手取り足取り教えてくれ、これにも深く感動した。そのあと行った試合では、みんなが全力を尽くし、対戦相手を尊重していた。一緒にスポーツの楽しみを味わうことができ、お互いの友情を大いに深めた。

帰国後は、家族や友人や先生に日本での見聞、特に、日本の社会福祉関連政策や福祉用具を伝えたい。自分のできる限りを尽くして、日本人が友情を深めたいと思っている気持ちを周囲の人に伝え、中日の友好に少しでも貢献したい。

○ 訪日プログラムで最も印象深かったのは、学校交流である。大分県立佐伯豊南高校で

は、農産品の販売活動を体験した。日本の生徒の丁寧な説明の後、実地の手ほどきを受けてプログラムを達成できた。相互交流では、何人かの生徒と名刺を交換し連絡先も交換した。山梨県立甲府西高校では、高校生の普段の学校生活に参加し、社会科と野球の授業も体験した。また、日本独特の文化である剣道を体験し、彼らの多種多彩な課外活動にも触れることができた。

帰国後は、同級生たちに日本の高校生の友情と情熱を伝え、両国青少年の交流を促進し、中日両国の友好交流を進めたいと思う。

○ 最も印象深かったのは、大分県立佐伯豊南高校と山梨県立甲府西高校を訪問し、情熱的で温かい日本の高校生に会ったことである。特に佐伯豊南高校では、生徒たちの情熱がとても強く印象に残っている。最も忘れがたいのは、みんなで一緒に昼食を食べた時のことだ。日本の高校生の親切さを強く感じた。彼等は見知らぬ人に対する距離感を、私たちに全く感じさせなかった。生徒同士も仲が良く、私たちに対しても友好的で温かかった。ここでは、日本独特のお菓子の作り方を教わるという特色のある授業を受けて、高校生の学校生活を实地に体験することができた。体育の授業では、緊張感のあるサッカーの試合をした。女子生徒も男子生徒に負けないうくらい熱心で、日本の高校生のスポーツ競技に対する熱意を感じた。課外活動では、私は茶道を体験した。緑茶と伝統的な和菓子を味わい、日本のお茶文化を学び、日本の独特な文化の魅力を堪能した。帰国後は、家族や友人に日本の美しい山河や日本人の友好と親切さを伝えたい。できれば、日本での楽しい遊びの経験も伝え、日本の基本的なイメージを持たせてあげたい。

○ 最も印象深かったのは、老人ホーム訪問とホームステイ、そして学校訪問である。老人ホーム訪問では、日本の社会福祉制度が完備されていること、便利で多様な福祉用具があること、社会福祉従事者が情熱をもって取り組んでいることを知った。二つの学校訪問では、日本の友人と知り合うことができ、中日両国の教育制度の違いも見ることができた。銭穆先生（中国の哲学者）は『国史大綱』で次のように指摘している。「いわゆる自国の過去の歴史に温情と敬意を抱くものは、少なくとも自国の過去の歴史に過激なニヒリズムを抱くことはない」。日本の学校教育における自民族の文化の伝承は、私たちも学ぶべきである。この他、ホームステイも短時間ではあったが、日本の一般市民の生活、習慣を身近に感じ、日本の人にとっても中国に対する理解を深めてもらう機会になった。

○ 最も印象深かったのは、日本の高校生と交流できたことである。実際、彼らの学業や日常は私たちと大差なく、私たちは長い時間話をして、中日両国の教育方法の違いについて語りあった。日本の授業の内容は、盛り沢山で負担が大きい、量と同時に質の教育も重視している。彼らは単位制を実施しており、生徒が自分で授業を選択して、決められた単位を修得し、一定の単位が取れば卒業できる。この方式は、弊害もあるが、例えば、数学ですら学ばなくてよい等、そこにある一種の思想や精神は、私たちも参考にすべきである。

帰国後は、同級生に日本の高校のことや九日間の日本訪問での見聞をみなに話したい。日本に対する認識を深め、変えたい。私自身も日本の友人と連絡を取り合い、中日友好に

貢献したい。

○ 最も印象深かった点：日本人の情熱、友好、礼儀正しい優れた品格。福山市の高校や神奈川県を訪問した時、多くの生徒が、知らない人である私に積極的に話しかけてくれたり挨拶してくれたりし、親近感が増した。私が何か質問すると、みな喜んで答えてくれた。先生も親しみやすかった。授業中、私たちに自己紹介の機会をくれた。

感動したのは、学校を出発する時、いずれの学校でも生徒や先生が私たちの姿が見えなくなるまで手を振ってくれたことだ。ホームステイのおじいさん、おばあさんも、とても親切だった。

周囲に伝えたい点：日本は秩序を守る国であり、日本の人は非常に友好的で、中国と似通った多くの文化的基礎がある。私たちは互いに学びあい、長所を伸ばしていくべきである。見知らぬ人でも、先生でも、会った時は礼儀正しく挨拶し、おじぎをして敬意を表すべきである。

○ 今回の訪問で最も印象に残ったことは東京都立三田高校での剣道のデモンストラーションの見学である。実技では、選手の気合い、力量、技巧、足の運びによってタイミングを掴もうとしていることが伝わってきた。中国の剣客が「剣を見る」時の気合いにも似て、日本の剣客の気合いも人の心を震わせるものだった。気合いは西洋文化にも見ることができる。特に西洋の巨大龍の咆哮は突出している。気合いは意志を表わしており、両国の剣客の気合いは、両国の文化の屈しない強い意志を反映している。また力量と運歩は謹厳な姿勢を、技巧は細緻さを表わしており、両国共によいところがある。互いに通じ合うものがあると思った。

帰国したら私は日本で学んだ社会福祉の知識や制度、その運用を中国の社会主義の中で取り入れてみたいと思う。また同級生に、中日友好の基礎は民間にあること、未来は青年が担うことを伝えたいと思う。私は友人に日本の高校生の学習の様子を伝え、ほんの少し勇気を出して自分を解き放つことや、教養を深め社会主義における現代化社会を作り上げる一助となるように話をしたいと思う。

○ 最も印象深かったこと：日本の高校生との交流。

周囲の人に伝えたいこと：日本の深い文化の息吹。中国と同じようににぎわっている大都市。きれいな街、美しい風景、魅力に満ちた茶道の作法と精神、健全な社会福祉システム。高齢者の物質的生活を考慮し、さらに高齢者の気持ちや生活に配慮していること。日本の高校生の学校生活のこと。周囲の人にいろいろな面から日本を理解してもらいたいと思う。

○ 印象深かったこと：学校で英語の授業に参加し、英語で自己紹介したこと。午後は男女に分かれてマット運動と茶道を経験した。茶道は厳かな雰囲気漂い、彼女たちの態度は淑やかで動作は規律正しいものだった。見ている人を引き込み、まるで後宮の女官のようだった。日本の「三道」の一つである茶道に深く感じ入り、日本についての理解を深めた。私たちは日本の古典の授業と科学の授業にも参加した。言葉は通じず、先生が何を話

しているのか分からなかったが、それでも様々なことを観察することができた。日本の高校生は授業を楽しんでいて、ゆとりや自由があり、中国とは違っていた。生徒たちは親切で、友好的で優しかった。私たちはとても強い友情で結ばれた。この友情は日本海にも邪魔されないと信じている。

伝えたいこと：日本人は温かく迎えてくれた。素朴で善良である。日本の高校生たちは友好的で、授業の制度は私たちの制度とは違うところがあった。日本の経済は発展していて、景色は魅力的だった。

○ 私たちは兵庫県に着いた日の午後、兵庫県立総合リハビリセンターを訪問した。体の弱っている人が通常の生活が送れるように支援するための専門の施設だ。長寿の家や自立リハビリセンター等の部門があった。最も印象深く感じたのはリハビリセンターが体の弱い人のために提供している施設やサービスだ。

障害者の場合、特注の専用車を利用することによって活動範囲を広げることができる(障害者の体の状況に応じて車を改造している)。日本にはこうした操作を助ける多数の車がある。それは障害があっても身体が不自由な人たちを通常の生活に戻れるようにするための政府のサポートである。老人や障害者の生活を便利にするための高度に科学的な設備が展示されていた。私は、これは弱者へ特別な関心を寄せた結果であり、多く投資をした結果だと思った。多くの人々が日本の社会福祉の成功例を知ることによって、良い効果を上げられたらと思う。すでに世界一でありながら、常に制度が改善されている。私は、中国は日本に学ぶべきだと思った。他者の生活を思いやり、他者の立場になって考え、科学力を高めて弱い人たちを助けたいと思う。

○ 日本に滞在した九日間の訪問交流について報告する。今回の訪問で学んだことはとても多く、学術面、生活面、能力面のいずれにも大きな効果があったと思う。日本への訪問によって多角的に各分野の理解を深めることができた。自己管理能力と自立するという意識も強くなった。

私が印象深く感じたことは日本の高校への訪問である。私たちは兵庫県の北摂三田高校と東京都の三田高校を訪問した。私たちは高校生として、学術と社会活動に積極的に取り組んで相互交流を行った。西洋文化の影響を受けている日本の教育制度と中国の教育制度の違い、それぞれの特徴を感じた。その他にも感じたことはたくさんあり、勉強になった。帰国して周囲の人に私が伝えたいことは、日本の発展の速度はとても速いということだ。それは例えば、社会福祉については弱い人たちのための保障制度がある。日本の教育には特徴がある。それは例えば、学習と趣味の両方を尊重していることだ。日本には歴史的な古い建築物や美しい自然がある。帰国したら日本の美しさ、自然風景の見事さ、長い年月、風雪に耐えた古跡や日本のホテルの快適さを伝えたいと思う。

○ (一) 最も印象深かったこと：①兵庫県立リハビリセンターの整ったサービスシステム、先進的な施設、従業員の好感もてる態度が深く印象に残った。特に障害者、老人、幼児に便利のように日用品がデザインされており、とても行き届いていた。②東京都立葛飾総合高校の吹奏楽部は素晴らしかった。演奏曲は聞いている人を喜ばせ、愉快地させ、

心がこもっていた。そして演奏のレベルもとても高かった。③東京と神戸の中心部で働く人たちには整った仕組みがある。公共交通機関で、または徒歩で通勤している様子から資質の高さを感じた。

(二) 伝えたいこと：日本の教育制度。高校生の学校生活。整った社会福祉システム。日本人の高い文明的教養。匠の精神。美しく清潔な環境。

○ 今回の訪問で、私は本当に日本文化の深さを感じた。最も印象深かったことはどの施設でもどの観光地でも、応対してくれる人たちが友好的に挨拶をしてくれたことだ。言葉は通じなくても笑顔とお辞儀で迎えてくれた。礼儀は、日本ではとても重要である。このことは私の印象に深く残っただけでなく、快い気持ちにさせてくれた。日本の人の温かさを感じた。

帰国したら、日本の整った社会福祉システムについて必ず伝えようと思う。これは今回の訪問の中心テーマである。日本の循環型政策の下で、困っている人たちはみんな生活を保障されており、このことは中国が学ぶべきことだと思った。また日本の都市の繁栄は、自然と融合して現代化されている。日本の人の、中日両国の長期的な友好に対する熱い期待も感じた。今回の訪問交流は私の心に深く刻まれた。

○ 今回の訪問で得たことはとても多い。知見が増え、視野が開け、いろいろな面で収穫が多かった。最も印象深かったのは東京都立葛飾総合高校の生徒との交流でお互いを知り、相互に学び合ったことである。両国の学習や生活の違いを知り、一緒に学習した。私は日本の高校生に中国語の漢字を教え、私たちは日本語の漢字を習った。喜びと感動は言い表せないほどだ。日本の高校生の熱意と友好と礼儀正しさを感じた。多彩な部活動、一人一人魅力ある生徒、全てが美しい思い出である。伝統文化の体験は忘れられない思い出である。日本の高校生たちのパフォーマンスは盛大で優れていた。中国では体験できないことを体験した。この友好交流の時間を大切に、日本の高校生たちと連絡をとりあい、もっと深く交流を続けたいと思った。

日本は発展した国家である。社会管理体系、文明、国民の教養、環境衛生、施設等全てについて、発展を続けている中国が学ぶべきことだと思う。賑やかな商業施設、国民の礼儀正しさ、風俗習慣、独特の日本料理、友好的で温かい日本人。

最も重要なことは日本の高校生の学習生活である。日本の高校生は活発で澆刺としている。上品で礼儀正しいふるまい、伝統文化のサークル活動と現代風のサークル活動。忘れてはならないのは、メインテーマー日本における社会福祉の模索であり、その内容から学ぶことができることである。

日本人は個々人の教養が高く、謹厳な風格がある。日本での毎日は充実して楽しく、ひとつひとつの活動が思い出になり、一分一秒が頭の中に途切れのない写真として残っている。私はこの貴重なプレゼントを心に刻んでいく。

○ 今回の訪問で、最も印象に残ったのは日本の高校生との交流である。初めは神戸市だった。あの日、たくさんの生徒が整列して温かく私たち一人一人を迎えてくれたのをよく覚えている。女子生徒は可愛くて、男子生徒は格好よかった。その後、一緒に琴の演奏を

練習した。優美な音色が今でも私の耳に残っている。さらに、その後の茶道は日本文化の趣きを教えてくれた。抹茶の香りが漂い、私の心を満たしてくれた。

2つ目の学校での文化交流では、ポップカルチャーについての紹介があった。私たちはダンスを習い、「はっ」という掛け声で一人一人が踊った。とても可愛かった！英語の授業と異文化交流の授業でもたくさんの生徒と友人になった。お互いに言葉を教え合い、私の知識も満たされた！

帰国したら、私は周囲の人たちに日本の文化、習慣、交通秩序、教育、社会福祉等のことを伝えたいと思う。私が自分で見たことを伝えることによって、日本の文化に対する理解を深めてくれることになればいいと思う。

○ 今回の訪問活動に参加できて光栄だった。日本の人が時間の概念と礼儀を重んじていることが忘れられない。「他人に迷惑を掛けない」という利他の精神に敬服した。日本ではたくさんの知識を学んだ。それはとても貴重な時間だった。東京都立葛飾総合高校も忘れられない。高校の服装は様々で、活気に満ち、部活動は豊富で多彩で、日本の高校生たちはみんな青春を謳歌していた。友好的で、謙虚で、すぐに友人になることができた。帰国したら、たくさんの人たちに日本のことを紹介して、日本の文化や習慣、日本の人が友好的であることを分かってもらいたい。そして、日本の人の謙虚で礼儀正しいところや時間に対する精神を学んでほしいと思う。中日関係がもっと親密になればよいと思う！

○ 今回の訪問で最も印象深く感じたことは、一泊二日のホームステイだった。一泊二日の間、私たちはホームステイ先の家族と交流し、伝統的な祝賀行事に参加させてもらい、神楽を見学した。この間、家族の人は私たちを自分の娘と同じように扱ってくれた。私にとって最も印象深い出来事だった。

帰国したら、私は友人や同級生に日本の人の温かさと友好的なことを伝えたい。そして日本人との交流を深め、中日友好交流に貢献したいと思う。

○ 私にとって最も印象深かったこと：神奈川県立神奈川総合高校を訪問した時のこと。私は友人と一緒に学校の演奏会を観賞した。学校の管弦楽部で、熱心で気持ちがこもっていて私は深く心を打たれた。音楽に包まれて周りの言葉は聞こえず、私は嬉しさと共に音楽の海の中に深く入り込んでいた。

帰国したら周囲に伝えたいこと：日本の人が友好的なこと。